

会 議 録

会議の名称	令和元年度第5回守谷市行政改革推進委員会			
開催日時	令和元年10月28日（月） 開会：15時　閉会：17時30分			
開催場所	守谷市役所 庁議室			
事務局 (担当課)	総務部市長公室企画課			
出席者	委員	川西会長，吉田副会長，牛島委員，松尾委員		計4人
	その他			
	市職員	坂総務部長，浜田市長公室長，前川企画課長，宮本課長補佐，南崎企画員，笠木主事		計6人
公開・非公開 の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 非公開	<input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数 1人
公開不可の場合 はその理由				
会議次第	1 開　　会 2 会長挨拶 3 議　　事 (1) 行政改革実施計画（上半期の執行状況報告） (2) 外部評価に対する取組状況説明 (3) 外部評価について（提言書の作成） (4) その他 4 閉　　会			
確 定 年 月 日	会 議 録 署 名			
令和元年11月19日	会 長 川 西 憲 二			

審 議 経 過

1 開 会

事務局： それでは、委員会を開会いたします。初めに、会長よりご挨拶をお願いいたします。

2 会長挨拶

川西会長： いつも同じ話で恐縮ですが、日程が非常に厳しいので、どういう形で進めていくかについて、後ほど皆様のご意見を伺いたいと思います。

今日は、事務局より行政改革実施計画の状況報告があり、それから外部評価に対する取り組み状況の説明があります。

行政改革実施計画につきましては今年度大きく変わっているのですが、昨年度はこれについての評価を行い、報告書に記載しております。これを今年度も行うかどうか、皆様のご意見を賜りたいと思います。

外部評価に対する取り組み状況につきましては、委員の任期が切れる際に、つまり3期前に取り組み状況の説明に対する意見を記載しております。私達委員会は今年ちょうど3年目ですから、同様に意見を記述するかについて皆様のご意見を賜りたいと思います。

それから、外部評価についての提言書の作成をしたいと思います。こういう多くの課題を処理することになっておりますので、よろしくお願いいたします。

3 議 事

事務局： 本日の資料の確認をさせていただきます。

○事前配布資料

- ・【01 行革⑤-2-1】 外部評価に対する取組状況について
- ・【01 行革⑤-2-2】 外部評価に対する取組状況について（総合的意見）
- ・【01 行革⑤-3-1】 施策・基本事業点検シート※電子のみ
- ・【01 行革⑤-3-2】 各委員作成提言書（案）

●当日配布資料

- ・【01 行革⑤-1】 行政改革実施計画執行管理状況について
- ・第4回行政改革推進委員議事録

本日の会議の内容は先ほど会長からいただいた内容になります。

川西会長： 事務局に資料についてお尋ねします。施策の点検シートを私がメールでお送りしましたが、それについては、如何になりましたでしょうか。私と吉田副会長の点検シートをハードコピーで配布をお願いします。

事務局： 承知しました。後ほど配布させていただきます。それでは、ここからの進行は川西会長にお願いいたします。

川西会長： 本日も委員4名全員の出席をいただいております。また、本会議は公開されており、傍聴の方が1名いらしております。本会議の会議録は、発言者の氏名を付して公表します。

(1) 行政改革実施計画（上半期の執行状況報告）

川西会長： まず、上半期の執行状況の報告をお願いします。

（地域主導・住民主導のまちづくりの推進）

事務局：【01 行革⑤-1】の資料をご確認ください。

（【01 行革⑤-1】の「地域主導・住民主導のまちづくりの推進」を説明）

川西会長： 質問です。まちづくり協議会のような活動は初めての取り組みです。良い取り組み例を示して、横展開は出来ませんか。ご説明の中で、守谷地区ではできていないというようなマイナスの状況だけではなく、うまくいっている地区の手法などを守谷地区に紹介する方が良いと思います。非常にうまくいっているところはありませんか。

事務局： 北守谷地区まちづくり協議会はもともと北連協という連合体を作っていました。それが、統合して今回のまちづくり協議会となり、非常にうまくいきました。

ただ、守谷地区は今までそのようなものがなかったもので、やはり地区特性に合わせ進めていくということになります。

川西会長： 協議会を作るための地域特性の問題をお話ししたわけではありません。協議会を作れば良いというわけではありません。

市民が参加してやっていく価値があるものだという示す良い例がないかということです。

事務局： 初年度で具体的な予算がついてこれからというところであります。

川西会長： 要望として、良い事例を他に紹介するようなことをやっていただきたいと思っております。

（行政評価の見直しによるマネジメントサイクルの確立）

事務局： 続きまして行政評価の見直しによるマネジメントサイクルの確立です。

（事務局【01 行革⑤-1】の「行政評価の見直しによるマネジメントサイクルの確立」を説明）

川西会長： ご質問ご意見はございますか。なければ、続きづきまして3つ目をお願いいたします。

（働き方改革の推進）

事務局： 3番目、働き方改革の推進についてです。

（事務局【01 行革⑤-1】の「働き方改革の推進」を説明）

川西会長： では、2つ質問があります。1つは、関係業者との打ち合わせとありますが、どのような業者とどのような打ち合わせを進めていますか。

2つ目は「業務プロセスの調査、可視化について財政的な負担が大きい」、とはどういうことなのかを教えていただければと思います。

事務局： 1点目の関係事業者との打ち合わせ内容ですが、こちらの詳細については、事前に担当課に確認を行っていなかったため、詳細については分からない部分があります。

川西会長： それぐらいはせめて事前に確認をしておいてください。

事務局： 2点目については、市の業務内容を委託業者に依頼して調査をしておりますので、そこでかなりの費用が掛かってしまうと聞いております。

川西会長： それはおかしいです。丸投げでは意味がないです。

松尾委員： 説明が判りません。説明する人間は一回自分が読んで、担当課と確認して理解することをいつも申し上げています。それは仕事をする上で重要なことだと思います。

実施計画は3つしかなかったのでしょうか。もっとたくさんあったと思います。

事務局： 今回の実施計画は、前期と後期で分かれており、今回から後期になりました。今回はこの3つのみです。今年5月の第1回目に実施計画は、皆さんにお配りさせていただいておりますのでご確認いただければと思います。説明が不足しました。

川西会長： 今の事務局説明は、正しいです。可視化について、財政的な負担が生じているということですが、可視化というのは、どういう仕事について何を可視化させるために、業者に費用を支払っているのでしょうか。例えば、私たちは何かを頼むときに、見積もりを頼みます。見積もりというのは依頼業務自体を可視化することになります。

まず、簡単な可視化を求めていく。可視化させながら、それを分かっていたいただいたうえで発注してもらおう。可視化というのは、発注の前提です。何か特別な事情があるということでしょうか。

事務局： 業務量の調査の委託費を指しています。それぞれの課の業務量について調査をする。

川西会長： コンサルに頼むということでしょうか。これは記載方法を直していただきたい。コンサルに依頼、と記載すれば済むことと思います。

事務局： コンサルに業務量の調査をお願いするということです。現在3社に相談しているような状態です。

川西会長： コンサル起用の是非については、コメントは差し控えたいと思います。

事務局： また、説明が前後してしまいましたが、まちづくり協議会の活動について北守谷地区、高野地区のまちづくり協議会の活動が始まっています。

「子どもの見守り」については、北守谷地区まちづくり協議会が行っております。

こちらは、子どもの見守りに関する「のぼり旗」を作成し、通学路等へ設置することで「地域で子どもの安全を守る」という気運を高めていく。

また、「ながらパトロール」として防犯ベストを作成し、「散歩しながら

ら」,「ランニングしながら」といった「ながらパトロール」を実施しております。

また、高野地区まちづくり協議会については、児童生徒見守り活動強化事業として、児童生徒の見守り活動を強化するために、「110番の家」の点検活動（継続の意思確認、新規依頼）、認識活動、逃げ込み訓練、立哨活動を実施しております。

川西会長： お聞きする限り非常に効果的な取り組みだと思います。他の協議会をご参考にしていただければと思います。

これらの実施計画を評価対象にしますか、それとも一つだけを取り出すような形にしますか。その点についての委員の皆様のご意見をお聞かせください。

松尾委員： 評価することは難しいです。

川西会長： 私もこの時点での評価は難しいと思います。ただ、PDCAの確立という面については、ずっと継続しておりますし、ワークライフバランスもありますので、ある意味では、継続している。

どれも以前からの取り組みが名前を変えて、或いは統合されたプロジェクトであるとも言えます。

全く新しく出たものは、あまりない。可視化しましょう、透明化しましょうという部分など、以前から行われてきたことを継続させて、一部を中に含んでおります。

実施計画の評価をするか否かの議論は、取敢えずこの形で置いておきまして、次のご説明をお願いします。

(2) 外部評価に対する取組状況説明

事務局： 続きまして、外部評価についての市の取組状況についてご説明いたします。

(事務局【01 行革⑤-2】を説明)

吉田副会長： 令和元年度上半期の公民館と図書館についてですが、非常に残念な取組内容と言わざるを得ません。私たちの提言がほとんど活かされていないからです。

公民館については、成果指標を施設の修繕件数から利用者の満足度に変えるなど、改善の方向が見える部分もありますが、問題は指定管理者をどう評価するかということです。

指定管理者に対しては、自己評価と市役所の評価だけでなく、第三者による評価が絶対に必要です。専門知識を持った方の総合的な知見が反映されなければなりません。

図書館については、まったく回答になっていません。事務事業マネジメントシートにすべての指標や評価を網羅することは難しいと言いつつ、なんら改善を図ろうとしていません。そして何を

かということ、昨年度まで実施していた指定管理者総合評価追加項目シートをベースに、図書館独自の自己評価も加えるとのことですが、このシートによる不適切な評価は、前年度の当委員会で指摘したところでは。

さらに大事なことは、評価項目だけでなく、どういう基準で評価するかということです。AとかBとかCとかの評価がきわめて恣意的であったことは、前年度の当委員会で申し上げましたが、これについての記述がないのはどういうことなのでしょう。

また、図書館広報の再構築を掲げていますが、私たちの建言の趣旨をまったく理解していません。直営による成果について、住民に判断材料を与えるものを開示して欲しいとしているにもかかわらず、図書館サービスの利用者向け広報など、既存の広報内容を整理したにすぎないからです。平成30年度第9回の当委員会でも、当時の教育部長に厳しく申し上げましたが、自分たちのどういうところに問題があるのかについて、およそ反省がありません。きわめて遺憾です。

松尾委員： 今の図書館のところ、市としては下期からフォローしないということですか。

事務局： はい。

松尾委員： 進捗状況を二重丸完了となっていますが、二重丸から一重丸の取組中に戻して頂きたい。直営化でサービスが落ちました。具体的には働いている職員の数が減り、処理が停滞しているときがあります。

それから直営化への変更理由として大きいものだったと認識していますが、学校への図書館連携です。それが一体どうなったのかを確認して評価をしたいと思います。その点が触れられず二重丸を付すのは納得出来ません。

それからごみの処理について、市の方針は検討するように要望していると書いているだけで具体的対応が書かれていません。

私は、現在、市長がここの管理者（組合長）だと思っていたので、我々の指摘と要望に添った市の意見が強く発言できると思っていたのですが、そんなに弱い立場なのかと意外な思いです。構成3市で纏まって組合へ改善を求めて頂きたいと思います。もっと強く市の方から改善要望を出して頂きたい。

それと改善要望実現の期限を設けるなど市の意見方針をはっきり書いていただくようお願いします。

川西会長： お二人の意見に賛成です。市役所の説明文は、私たちの報告書をもっと見ながら書いていただきたい。どうも我々の報告書を見ながら書いたとは思えない。

例えば私たちの報告書では、民営化後の入館者数や貸し出し図書数

の増加について、具体的な数字を示して評価している。然し市の説明文にはこうした客観的な数字が出ていない。直営になって、これらがどうなったのか具体的な数字が記載されるべきです。それから、直営化の理由として学校との連携改善も挙げられていたもので、それがどのように進展しているのか、記載されるべきだと思います。

私たちの報告書を読んだうえでそれについてもっと具体的に書いていただきたい。

一方公民館については、前向きに記載していただいている。

他も本委員会報告書の内容を受け止めて記載していただくとありがたい。

牛島委員： 全体的な質問として、行政評価というのは何のためにどういう方向でやられているのか。何をしているのか、何でこれをしているのか。一個一個不思議で仕方ない。僕は評価の専門家ですが、思っている評価と違うのかと思います。現状を把握したい。

事務局： 質問の行政評価は何のためということですが、総合計画を実施していくためにというのが元にあります。

現実的には総合計画があり、体系を作っています。政策、施策、事務事業と、計画に沿うように事業を実施している。現実的には総合計画は既存の事業を実施しているところに後から入ってきたものであり、行政改革については、そういった部分の横串を通すというか、効率化合理化を速やかに進めていくものだと思います。

ご指摘の通り、市の取り組み状況では、説明が今の自分たちの説明に終始している部分があるので、この点は私たちの方でもう一度ぶつけていきたいと考えております。

牛島委員： 目標としているものと進めていくためにやるということだと思いますが、情報を整理して、集約して判断していく手続きがなされているように見えない。

これは、守谷市だけだと思っているわけではなくて、行政評価というのは、総務省のホームページを見てもひどいものであり、良くない例として授業の見本に使えるようなものです。

いろいろな基礎自治体で進めていこうとしているものですが、守谷市はやろうとしていない側に見えてしまう。

PDCA サイクルが何も進んでいないというのがまさにそうだと思います。

例えば、アンケートというのはないよりはましなのですが、誰かの主観に基づいてのアウトカムではなく、もっと客観的なところから始めてもおかしくないと思います。

一番初めに出てきてもおかしくないようなもの、例えば利用者が何人利用であるとかが出てこないというのはどうしてだろうというのが

あります。

吉田副会長： 先ほどの公民館と図書館についてですが、生涯学習課はこの取組方針から何を言おうとしているのでしょうか。教育委員会の上層部は何を見ていたのでしょうか。マネジメントの根本的な見直しが必要です。

とりわけ、図書館については苦笑するしかない内容です。図書館の運営自体について、具体的にどこに問題があるのかが分かっていません。

このような作文を私たちは求めていません。日本語の読解力と表現力が不足しています。

川西会長： 提言書の対象にするかということについて皆さんの判断をお願いしたいと思います。

松尾委員： 提言書の中に入れるべきだと思います。

川西会長： 「取組み状況のフォローアップ」について提言書に入れるべきかを各委員に問います。

(全員賛成)

川西会長： 提言書に入れていきたいと思います。全体を書く必要はありません。時間も限られておりますので、やりたいものがある方に立候補をお願いいたします。

吉田副会長： 私の専門は社会教育ですので、公民館と図書館をやります。

川西会長： それでは、公民館と図書館を吉田副会長にお願いいたします。

松尾委員： ゴミをやります。

川西会長： 評価全体について、牛島委員いかがでしょうか。

牛島委員： 今回提出の資料の中で、書いたと思います。

川西会長： はい。総合的な観点からはすでにご意見をいただいております。ですから、個別具体的な指摘として入れていただきたい。30年度の取組み状況だけが対象です。今日の事務局説明を受けて、具体的な事例としてご意見をいただくことができますでしょうか。

牛島委員： 評価の方法についてでしょうか。ここから分かることだけで構いませんか。

川西委員： はい。その通りです。皆様にこの部分（市の取組み状況）につきましても次回の委員会の1週間前までに案をメールで頂きたいと思えます。

牛島委員： 次回の予定日ですが別の予定が入っています。

松尾委員： 次回私も別の日程とぶつかってしまいます。

川西委員： 4人のうち2人しかいないとなりますと、次回の日程を変えることを議論したいと思えます。こちらは今日の会議の最後にできるだけ調整して行きたいと思えます。委員会として最終的な結論を出す時点においては、少なくとも3名はご出席いただきたいと思っております。

次回の1週間前までに市の取り組み状況に対する意見を出してもらいたい。吉田副会長については、個別だけではなく、一般論もお願いしたい。

一方で、実施計画執行管理については、今後の成り行きを見守るということで提言書には書かないということによろしいでしょうか。

(全員賛成)

では、今回は外部評価と市の取組状況のフォローアップの2つを記載することになります。

(総合的な意見に対する取り組み状況)

事務局： では、資料【01行革⑤-2-2】をご覧ください。

(事務局【01行革⑤-2-2】を説明)

川西会長： 市の取り組みとして、宿題として残っていることがあれば、そのように書いていただきたい。私どもの言っていることについて、一つ一つ回答していただきたい。この辺についての私たちの指摘は細かい。

例えば外部人材の活用については、いろんな形でやって頂いていること自体は既に評価しているわけです。

もっと内部に専門家を導入してはどうか、ということも書いているわけですが、それに対する市の意見はどうなっているのですか。難しいことがあれば難しいと書いていただければいいわけです。今検討中だけでも、いろいろ懸念材料もあって、まだ回答には及ばないということであれば、それでもいいと思います。

説明もなく、なんとなく消えてしまうのでは取り組み状況の説明としては不十分です。

何かご意見はございませんか。

松尾委員： 日報管理システムはどのようなものなのでしょう。

事務局： 日報管理システムは各職員がその日に、自分がどの事務事業を何時間実施したかを、記録としてつけるものになります。

1年経ちますと、どの職員が、自分がどの事業に何時間従事したのかがすべて網羅できるようなものです。

松尾委員： それは事務事業単位ですか。

事務局： 事務事業になります。

松尾委員： 会議などはどうですか。

事務局： その他の事業、担当全般に振るようになります。

松尾委員： 会議について聞きましたが、無雑時間がどれくらいあるのか。残業も含めて、そのような統計を駆使すると、どのくらいが適正規模か、大体判ってきますのでそういう分析をされるといいと思います。

川西会長： その他の意見はありませんか。総合的な意見に対する取組状況について。

牛島委員： 繰り返しになってしまいますが、意見に対する取組状況については、

意見に対する取組状況を書いていく手紙のやり取りのようなものです。この様式は見やすいですが、やはりワード形式のドキュメントの方がやり取りとしては正確なので、そのような作り方をしても良いのかと思います。

研究分野でも、意見を受けてやり取りをしていますが、一つでも回答が漏れていたらダメです。

実務の現場なら尚更そのようにすればいいと思います。それぞれフォーマットとしては個別事業の提言に対する取組は使っていた方が、良いと思います。

吉田副会長： 取組状況については、一応は良くできているかと思いますが、私たちの意見に対し、まだ全体的に足りないところが見受けられます。表現の仕方を工夫するなど、私たちが個々の事務事業を理解できるように改める必要があります。

川西会長： 説明の様式、フォームは個別提言に対する取り組み状況の様式を使っていた方がわかり易いと思います。

(3) 外部評価について（提言書の作成）

（追加資料配布【01 行革⑤-3-1】川西会長，吉田副会長の記入済みシート）

川西会長： 外部評価をしたいと思います。

まず、施策「組織経営と人事マネジメントの充実」と基本事業「柔軟で効率的な組織運営」「適正な人事管理と人材育成」の評価をします。

施策については、成果指標として、「職員の仕事ぶりに不満を感じていない市民の割合」と「多様なニーズに対応できる組織だと思っている市民の割合」という二つが設定されています。

昨年度の市民アンケートによると、「不満を感じない人」が 87.5%、「多様なニーズに対応できると思っている人」が 59.42%。

両者の違いは明確です。不平不満を感じる人は少ない。良いことだと思います。だからその部分は非常に高く評価されていると思います。市の職員はけしからんということは実際あまり聞かないですね。

一方で、先進的な多様なニーズ対応という点では、6割程度です。

この点では、まだまだと見る市民が少なくないのだと思います。この施策評価について、私案は 75 点です。

こちらの人事制度をいろいろ見させていただきました。市は 僅か 300 名超の小さな組織ですが、人事制度として押さえるべき点は一応全面的に網羅してあります。これは評価してよいと思います。勿論一部に不十分な部分はありますが、全面的におかしいということは無い。

私は大企業の人事部企画課や、中小企業の社長経験があり、人事には密に接してきましたが、これらと比較してもまずまずであると思っています。

75 点については、上述の成果指標の達成率も考慮し、そしてまた、

人事諸制度を総合的に見ました。80点、90点の「優」とまでは言えないが、「良」の上の方ではないかと思った次第です。

吉田副会長： 二つの成果指標は、評価方法が非常に似通っていて、示された数字はそうなのだろうとは思いますが、ただし、1人1人の職員はよく頑張っていますが、組織の仕組みが旧来の行政システムを引きずって、現実の仕事にマッチしていないところがあるように思います。

このことは、前回の委員会でも申し上げましたが、半分は市役所の組織風土に由来する問題であると私は理解しています。貢献度は70点とします。

牛島委員： この成果指標ですが、そもそも市民が組織経営と人事マネジメントの充実を評価できるものなのではないでしょうか。

なぜこれが成果指標に上がっているのかが、何を目標としているのだろうかという気がします。

結局何で目標もこれになっているのか、人事をどうしたいのかわからないのが、そういうアウトカムをつくりたかったのかと思ってしまいます。考えるということをしてないのかという印象を持ちました。なぜこれが成果指標なのかと。そういう質問です。

川西会長： 私が回答する立場にはないのですが、守谷市作成の「守谷市人材育成の基本方針」が、どういう人を育てていくかを記載しております。

①公務員の使命と責任を自覚して住民の期待と信頼にこたえられるようにみずからを高める意欲を持ち、自己啓発に努める職員。

②次に職員の形成、育成、それから市政の目標を理解し強い意欲、積極性を持って政策を形成できる職員の育成。

③最後が、時代の変化や多種多様な行政環境に的確に対応できる柔軟な思考力や創造性を持つ職員の育成となっております。

今のご質問に直接お答えすることはできないですが、①がどちらかというと市民との接点的な、「不満を感じていない市民の割合」を向上させようとしていると見えます。

③が、「多様なニーズ」即ち、多種多様な行政環境に的確に対応できる人材育成という部分で理解できると思います。

住民の期待と信頼に答えられる部分はやっぱり窓口の対応とか、そういったものがどうしても来ると思います。もちろんこれで十分とは言えませんが、ある意味で人事の指標を顕している。

これはあったほうが良いなと思います。やっぱりこういうアンケート結果を見ながら、自分たちを高めていって欲しいなと思います。

ですから、私はアンケートが非常に重要だと思います。一つの自分たちを映す鏡でもあるような気がします。

ついでに申し上げれば、こういった人材育成をきちんと考えて且つアンケートでフォローしているのは、よくできていると思います。

少ない人数でどういう人材が要るかを文章に書くのは難しいのですが、責任を持って記載していることはいいことだと思います。

牛島委員： わかりました。

川西会長： 続いて、「柔軟で効率的な組織運営」について、説明をお願いいたします。

吉田副会長： 成果指標についてですが、組織間と組織内の連携が十分に図られていると思う職員の割合が3分の2というのは、本当にそうだろうかという疑問があります。

連携が図られているかどうかは、立場によって見方が異なり、管理職と一般職員では違うように感じます。

また、職員1人当たりの人口数ですが、適正な人数が大切であるにもかかわらず、マネジメントシートからは、職員を減らそうとしていることしか見えませんでした。

今後も行政需要がますます増えていく中で、必要な人数を措置していけば、人口指標での基準も変わっていきます。

職員数の増加が避けられないので、この評価をとりやめるとするのは理由になりません。

数字の歯止めがないと、職員をただ増やすだけの形になってしまいます。

基準値がどうあるべきかを考えて、それとの乖離度がどれくらいあるかで評価すべきだと思います。

結論を申し上げますと、事務事業の必要性は100点です。

一方、貢献度については、見えない部分があるので60点としました。

細部をどう見るかによっては、70点としてもよいと思います。

川西会長： いかがでしょうか。ご意見はありますか。

牛島委員： 効率的な組織運営はどのようなときに効率的であるとしているのでしょうか。

坂部長： コストと成果の比較になると思います。同じ結果を出すと言っても、最小限でやったほうが良いのは当然のことで、人のコストと、事業のコストです。

牛島委員： 例えば、残業時間は非効率になりますか。人件費としては、例えば残業時間か職員数ですが、それらを減らすっていうのも一つの目標、効率性の指標になる気がします。

例えば職員を4人から5人にしたとき、残業時間が1人増やしたよりも減るのであれば、効率化です。

事務局： 例えば残業が継続的に必要であれば多分それは人の配置の問題ということもあるのですが、一時的なピークを残業でこなしているとすれば、それに合わせて人の手当で調整したほうが、それ以外の時期で無駄

な部分も生じない。

今働き方改革で勤務時間を減らしましょうとしていますが、守谷でも、完全退庁9時を目指してやっています。

1年間のピークをどう見るかで一時的なものであれば、ちょっとその時期は忙しいかもしれないですが、時間外で調整していくというのは、金額的な面だけ見れば、全体の支出はそちらの方が少ないっていうのは、ありうるのかなとは思いますが。

牛島委員： 分かりました。

川西会長： 私としてはこの吉田副会長案に微修正を加えさせていただきたい。「数値の向上が目的ではない」と記載してありますが、数値の向上もやはり一つの重要な目的です。数値の向上「だけ」が目的ではないと変更させていただきたい。

(吉田副会長同意)

川西会長： やはり行政もクオリティが良くないといけない。特にご異論がなければ、数値の向上だけが目的ではないに変更してください。

私は、「職員1人当たりの人口」という指標は、やはり重要な指標であると思います。ですから、もう少し得点を差し上げたいと私は思っています。

勿論ここに書いていただいているように、他のいろんな方法で、例えば非正規職員の採用、或いは民間に委託等をする中で、この指標だけでは不十分なことは間違いないのです。

皆さんいかがですか。

牛島委員： 頂いた資料からはよく分からなかった。年功序列以外の人事の評価の仕方があるのでしょうか。あと効率性に関してはやっぱり指標がないので、ちょっとわかんない。

窓口業務に関しては、悪くない質だという解釈もあるとは思いますが。その中で、しばしば人がいない人がいないって話が出てきて、例えば人がいないから、避難所がつかれなかったとかでは、それを効率的、合理的じゃない印象を受けます。

川西会長： これは市民に対してアンケートを毎年行っています。アンケートの回収率はどれくらいですか。

事務局： 40%程度です。

牛島委員： 会長がおっしゃることも理解できるので、60～70点が妥当かなと思います。

松尾委員： それでいいと思います。

吉田副会長： 会長がお示しになった点数との整合性をとらなくてはいけないので、今ここでお決めになっていいのではないかと思います。

川西会長： 基本事業「適正な人事管理と人材育成」は如何でしょうか。

松尾委員： 一応65点ぐらいと思っています。必要度は100です。

川西会長： では、私の点数を 70 に下げ、吉田副会長は 65 点に上げましょう。その結果、施策「組織経営と人事マネジメントの充実」が 70 点、基本事業「柔軟で効率的な組織運営」が 65 点、「適正な人事管理と人材育成」も 65 点で、点数付けは終わりです。今の形で事務局に素案を作っていたいただきたいと思います。また、そこに松尾委員の意見を入れていただくようにしたいと思います。

続きまして、皆さんから出ている意見について、各委員からのコメントや修正意見をお願いいたします。行革⑤-3-2 の資料です。これについて修正なり、疑問なりはございませんか。大きな論点については今回で議論を尽くしておきたいと思います。

表現の適切さ等の細部については、次回委員会の 1 週間くらい前までに出していただくようお願いいたします。

牛島委員： 次回来ないので私の書類について、守谷市の職員数というのは少ないけれども、増やせばいいわけではないと、標準人工数を使って、ある程度の目安をもって、管理するのがいいのではないかというものから始まり、標準人工数を使う方法を私なりに考えて書いたりしました。

標準人工数で管理するこの方法でいいのかっていうのが、ちょっと私は類推して積み上げただけなので、一般的に実務の現場でどうされているのかちょっとよくわからない。

二つ目が人工数とか、あとはその人事管理における利点と、あとはそれ以外の業務における利点の議論をしています。

例えば、先ほどあった人工数を推計に使うという話もちろん入っています。

今、全部やるわけにはいかないですが、これに関して何か修正すべき点とか、抜けている、過不足等々があれば、ご意見いただければと思います。

途中までのバージョンは、会長にご確認いただいて、この場で諮りたいです。

川西会長： 牛島委員案に「標準人工数よりも少ない形で業務がおこなわれていると、妥当な質で業務が行われていない。」とあるのは、断定し過ぎだと思います。「妥当な質で業務が行われていない可能性がある。」としては如何ですか。

(牛島委員賛成)

川西会長： その他の多くの部分については、一つのご意見としては問題ないし、良く書かれていると思っています。

牛島委員： 分かりました。また、細かい話なのですが、業務を 4 つに分ける必要があると思っています。やっぱりいろんな仕事があって、要するに推計しやすいものとか推計しにくいものとか、絶対削れないとかいろいろな尺度があると思います。その時の 1 個 1 個を守谷市に対応してい

かないと、職員がさっぱりわからないとなりかねないと思ったので、もし何かあれば修正意見をいただけたらと思っております。

川西会長： 書き方の一貫性について、皆さんが「である調」で書いていただいているので、それでよろしいと思います。

それ以外のところについても、加工する必要はないと思いました。

例えば、私は①－⑥全部の項目について書きましたし、他の方々には、一部を深掘りしていただいたのですが、それはそれでいいと私は思っております。このままで、本文として載せるという認識でおりますが、いかがですか。

吉田副会長： 書かれた方を尊重して載せてよいと思います。一般論も事例も、書き方に工夫が必要でしょうし、事例が何もないというのもありますが、すべてを整えようとするとうりすがつかなくなります。

単年度だけを扱うのでいいのかということもあるので、過去3年にさかのぼってよいと思います。

川西会長： 各々が同じことを繰り返し言っているという面はあります。その論旨の中で、他の人の意見を補強している部分もある。全く同じことを色々な違う視点で掘り下げて、結局同じ問題点に当たるということがあります。私はそれでよいと思います。

原稿作成者の名を記載する、という点については、原案作成者が誰であれ、委員会の意見として出したい。いろんな参考意見として出すという意味ではありません。評価も、会としての全体の意見である。個人の意見ではない、ということにしたいと思っております。

記載者の名を記すか否かは、今急ぐわけではありませんので、次回決めるということでもよろしいでしょうか。

(全員異議なし)

吉田副会長： 個人的には、点検シートのコメント欄も個々の提言も、できるだけ短くしたいとの思いがあります。

それと、読みやすい文章にするということもあります。私たちは市役所の職員に向けて書いていますが、実はその先に住民がいるわけです。

どうしたら住民の方にわかっていただけるかは、結構難しいことであって、言葉の使い方を統一するとか、注釈をつけるとかが必要になります。

例えば、人工数と書いても、普通は「にんくすう」ではなく「じんこうすう」などと読まれてしまいますから、住民の方々への配慮を忘れてはいけません。

川西会長： その点については、従来は私が市長に対してご説明するときに、A4で2ページほどの要約を記載し配布してきました。報告書にこうした要約を記載する、それは私が書くということでもよろしいですか。

それと併せて、なぜこの人事問題を取り上げることにしたか等の、経緯や手続き的な部分は、私の方で書かせていただきます。

念のため、これまでの議論のまとめを申し上げます。

まず評価対象ですが、対象にするのは、外部評価とフォローアップの二つです。フォローアップというのは、市の取り組み状況の説明です。

評価の全般的な部分につきましては、私の方で書かせていただきます。

それから、図書館と公民館及びフォローアップの総括的な部分は吉田副会長に書いていただきたいと思います。

常総広域市町村のごみ処理については、松尾委員に書いていただいて、評価をお願いします。

それから牛島委員には、評価項目、評価手法、評価に関する何かをお願いします。

そして、外部評価全体につきましては、必要があれば微修正をしていただいて、このままの形でいきたいと思います。

それから、点検シートですけれども、施策については、この文章のままで、政策への貢献度を70点に下げます。吉田副会長については数値の向上「だけ」が目的ではない、にさせていただいて、65点にさせていただく。

それから松尾委員の部分については、65点ということで、これをメモ欄に書いていただくということでございます。

これをもとに次回開催日の11月25日の1週間前くらいをまでを目途に、皆さんにメールで送っていただきたいと思います。

よろしいでしょうか。確認事項として私の方で漏れたことはございませんか。以上でお願いしたいと思います。事務局の方から何かございませんか。

(4) その他

事務局： 次回は予定通り11月25日ということでよろしかったでしょうか。

松尾委員： 途中から参加であれば可能です。

川西会長： 変更なしとします。次回は委員2人で会議を始めて、最終的な決定は松尾委員参加後の3人になってからとします。それではこれで閉会です。

4 閉 会